

# 学校法人ランバス記念幼稚園 学校評価報告書

理事長名 岡本 聖美

記入者名 園長：田中 祐子

2024年11月1日

教育目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども一人ひとりが、神さまから愛された大切な存在であることを知り、受け入れられる事を感じる。</li> <li>身近な自然、環境の関わりを通して健康な心身を育み、豊かな情操を培う。</li> <li>お互いの個性の違いを認め合い、共に育ちあう。</li> </ul>				
内容	重点的な取組み	評価 3段階	特記事項 (学校自己評価)	今後、取り組むべき課題
指導計画・教師の役割	・みて、ふれて<身体を育てる>		・心を動かし<心を育てるキリスト教教育>	・考える<考える力を育てる自由教育>
	キリスト教的孩子観、共感に寄り添う姿勢、肯定的なことば添えを基本とし、基本的生活の獲得、子ども間の衝突・葛藤を乗り越えられるように支える。	3	・園の理念、方針を理解し、キリスト教的孩子観を生かした教育計画・実践が行えた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して教員同士が理解に努め、研修や教師会だけでなく、日常的にも対話を重ねながら共通認識を深めていく。</li> <li>保護者に対しても、保護者会、礼拝、園だよりで情報を発信し、共に愛情をもって育てていく教育への理解に努める。</li> <li>園児が愛されている自分を感じられるよう、チームで保育を行う</li> </ul>
	教育の質向上のために、園外研修の積極的な参加と定期的な園内研修・職員会議での勉強会を実施する。	3	・キャリアアップ研修を始め、外部研修、園内でのZoom研修は積極的に参加できた。又、職員同士情報交換ができた事で子どもの対応について話し合い考える事ができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の共通理解を深めるとともに、教員間での教育理念の継承(園として大事にしてきた歴史や経緯について)を行う。</li> <li>引き続き、園内・園外研修を行い、本園の保育内容を教員全員で振り返り意見交流を行い、保育の専門性を高め合う。</li> <li>年間を通して日々の実践の振り返りを教員間(園全体)で行い、経験年数にとらわれず、援助の手立てや子ども理解について話し合う場をもつ。</li> <li>各自で研修会、研究会への参加を積極的に行い、参加した教員からの情報公開、情報共有を行う。</li> </ul>
	自分たちで楽しい事を見付け、意欲的に遊びだす環境の構成を心がける。	2	・好きな遊びの構成は、子どもたちの姿を見ながら考える事を意識した。引き続き子どもたち興味を探究刺激しあって遊べるような環境を教師で共通理解し工夫したい。	・子どもの発達課題に見合った保育環境の設定や活動の選択・展開について学びを深め実践する。
子どもの姿	友だちと関わりあいながら遊ぶ楽しさを感じるための支援を工夫する。	3	・遊びのアイデアを友だちに知らせたり遊びに参加して広げるなど意識をした事で友だちに関わる楽しさを味わうようになっている。	・引き続き、個々の発達状況に応じたきめ細かい支援を行う。
	一人ひとりの良さや違いに気づき、互いを認め合うなかま作りの推進をする。	3	・教師が一人ひとりを受入れ認めている姿やそれぞれの良さを伝えあえるクラスでの祈りの場を大切にしている事が互いの良さや違いを受け入れる姿に繋がっている。	・引き続き一人ひとりの良さや違いに気づき、互いを認め合うなかま作りの推進をする。
	自分たちで遊びや生活を進めるための支援をする。	3	・一日の予定を話し合い決める事で活動の終わりを意識したり、時間の使い方を考え生活を進めようとする姿に繋がった	・引き続き、子どもたちが自分たちで話し合い意思決定ができるように、教師は、考えるきっかけになる言葉かけを行っていく。

環境・情操教育の充実	園庭環境を考え、子どもの興味・関心を深めるための環境作りをする。	2	・老化したプールを畑に転換し野菜作りから食育に繋げた。子どもの興味関心を満たす園庭にするための工夫が必要。	・草花・水・泥に触れられる環境を作るための勉強会を持ち園内で実施できない経験は園外活動として行っていく。
	五感を育む実践を行う（ページェント・運動会・音楽会・劇あそび製作展・親子活動・キャンプ・子どもたちと考える遠足）	3	・子どもの発達状況を踏まえ、学年により年間で行事予定をたてて充実した活動を行えた。子どもたちも経験を通して自信と前向きな取り組み姿勢が構築できた。	・表現活動を通して、工夫したり、考えたり、幼児なりの創造性を発揮できる様にする。 ・絵本や物語を使って、想像力や言葉に対する興味を育てる。
	サークルタイム（話し合い）を大切に、対話力を豊かにするように援助する。	3	・教師が指示をするのではなく常に話し合う事を大切にする事で自主性と考える力を育てる事ができた。	・サークルタイム（話し合い）を大切に、子どもたち一人ひとりが、自分の考えを話せるような援助の方法を教師間で共有し、強化する。
保護者との連携	・保護者会、個別懇談、参観を行い保護者に来園をしてもらい子どもの様子を伝える機会を設けることにより教師との連携を取る ・HP・インスタ、園・クラスだより等で園の様子を発信する。 ・ケガや子ども同士のトラブル等については、保護者に丁寧に誠意を持って正しい報告を行う。	2	・保護者会・個別懇談会・参観を行ったことで保護者と共通理解ができ良き関係が構築できた。 ・幼稚園からの情報発信は、可能な限り行ってきたが、ドキュメンテーションのスキルアップが課題である。	・引き続き、各教員が日々の保護者とのコミュニケーションを丁寧にとる事を意識する。 ・より細やかな対応が取れる様に、教員同士で話し合う機会を増やし情報を共有する。 ・写真、ビデオ等を活用し視覚的に園児の日々の姿を保護者に理解して頂く機会を設ける。 ・教員と保護者が、園児を中心に考え、共に園児の育ちを支えていくという意識が持てるように、継続して教員から保護者に働きかけ、連携を深める。 ・引き続きケガやトラブル等の報告は、丁寧に誠意を持ち正しい報告を行うように更に行う。
地域との連携	・地域に向けての情報発信として、HP/インスタを活用する。 ・臨床心理士による相談会を、地域の未就園児に対して実施する。 ・園庭解放や未就園児へのプログラム提供を行う。 ・夏休みに、地域の小学生に向けたデイキャンプを行い地域との繋がりを深める。	2	・地域交流、地域への情報発信が十分でなく課題である。SNSの利用で当園を知らない方との連絡が取れ始め、子育て支援に繋がっている。 ・未就園児へのプログラムの更なる充実を行う。	・更に、地域に向けた情報発信を行う。SNSや児童館などにも集いの情報を掲示して頂くなどを強化する。 ・園外の専門家（療育施設職員）市のインクルーシブ担当教諭から支援方法やインクルーシブ保育についての知識や情報を得て、それを子どもたちに還元していく。 ・小学生・近隣の方との繋がりは、親子学級などの活動も活用して密に行うようにする。
運営管理	・守秘義務の徹底、園長への報告、連絡、相談は速やかに行う。 ・連絡、報告、相談の流れを作り、危険な場所、改善箇所への対応はスムーズに行う。 ・安全、衛生管理の徹底を職員一人ひとりが意識する。	3	・守秘義務の徹底、園長への報告、連絡、相談は速やかに行っており、全職員が園の方針に従って行動できた。 ・安全、衛生管理の徹底についても全職員意識して行えた。	・引き続き、守秘義務の徹底、報告、連絡、相談等はすみやかに行う。 ・全職員が園の方針を理解し行動をすると共に、保護者に対しても理解をして頂けるように丁寧に説明を行う。 ・引き続き、安全・衛生管理の徹底を意識して行う。

【評価】 3達成できた 2概ね達成できた 1課題がある

学校関係者の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日、子どもも、親も楽しく通園ができており、キリスト教を通して相手を思いやる心が育ってきている。</li> <li>・未就園児クラス・園庭解放の情報をもっと地域に分かりやすくしていく工夫が必要であると感じる。</li> <li>・引き続き、全職員が情報交換を密に行い情報共有に努めてほしい。</li> <li>・様々な体験から、子どもが感じ、学んでいける事が素晴らしいと感じる。</li> <li>・食事マナー等は、園と家庭が協力して行えるように園で行った内容の詳細を保護者にも知らせてほしい。</li> <li>・仕事をしている保護者が預かりを利用しやすく、長期休みも午前保育をしてもらっている事は良い。更に仕事をしていても幼稚園に通わせやすいように預かりの充実をしてほしい。</li> </ul>
財務状況	公認会計士の監査により、適正に運営されていると認められている。